



在日大韓基督教会
 宣教100～110周年標語
 감사의 백년, 소망의 백년
 感謝の百年、希望の百年
 (데살로니가전서 5:18)

2013年10月1日(火) 第723号

発行所 **福音新聞社** (1部100円)
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎ 03-3202-5398
 発行人/ 金 武 士・編集人/ 洪 性 完
 fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
 info@kccj.jp (総会事務局)

＜韓・日教会青少年交流ツアー＞ 「ともに生きる未来をみつめ」



去る8月5日～8日、総勢37名(教役者5名、保護者・信徒6名、教団別参加者: 在日大韓基督教会中部地方会19名、日本基督教団中部教区10名、日本キリスト教会近畿中会中部地区8名)の参加者で、「ともに生きる未来をみつめ」韓日教会青少年交流ツアーが韓国において実施された。

この計画の発案は、韓日の領土問題をめぐり日本においてナショナリズムが高揚し、在日大韓の教会の信徒の子女が日本の学校において心ない生徒の揶揄にさらされる事情が牧会者の耳にまで届くようになった昨年の夏にまで遡る。

計画が中部地方会任職員会においてプロジェクトとして正式に決議されたのは昨年11月16日であった。プロジェクトの趣旨は、このような時期にこそ未来の韓日の平和の構築のための働き人となるべき韓日と在日の教会青少年の歴史共同学習と礼拝交流体験を実施するというもので、宣教協約の具体化であり、また在日大韓が主軸となり3教団の合同宣教教育プログラムとしよう、というものであった。

日本側の参加者の範囲を、中部圏において、呼びかけ人となる在日大韓基督教会と宣教協約のある日本基督教団と日本キリスト教会の小学生4年以上、中高生、大学生、青年とし、そこに教役者と保護者、信徒を数名加えるということにした。

3教団合同としてこのプロジェクトを実現できた背景には、中部地方会がそれまで過去10年以上にわたり、宣教協約のある日本の二つの教団と着実に年数回、宣教協力委員会を続けてきた信頼関係があることを忘れてはならない。

プロジェクト実現までに、結成懇談会(本年1/22)、実行委員会(2/7より数回)、参加者オリエンテーションを2回(5/11、7/13)という準備プロセスが踏まれて行なわれた。

このプロジェクトを全面的に支持し、受け入れ教会となってくれたのは、韓国基督教長老会韓信教会(姜龍揆牧師)であり、宿泊とバス移動、レセプションなど大きな援助を受けることになった。

プログラムは、一日目、楊華津宣教師墓地見学と開会礼拝(説教: 姜龍揆牧師)、レセプション。

二日目、華城市の堤岩里教会、天安市の独立記念館。三日目、ソウル市の世宗大王・李舜臣將軍博物館見学、そして午後には韓信教会にて在日(中野真希姉、在日大韓基督教会名古屋教会)と日本(永井文神学生、日本キリスト教会名東教会)側からと韓信教会青年からの発題が行われた後、小学生、中高生、大学青年のグループにそれぞれ分かれ、楽しい遊びの交流と平和交流のポスター作りの時間が持たれた。

最後のプログラムとして、韓信教会水曜礼拝(説教: 大島純男牧師、日本基督教団南山教会)参加と日本からの参加者による聖歌隊賛美、および崔利先執事<在日大韓基督教会名古屋教会>の特別讃美がなされた。

この度のプロジェクトは、韓国のキリスト教メディアに大きな注目を受け、キリスト教放送局による取材と放送がなされた。

実行委員会は、反省会において今後も実行委員会を継続させて、参加者による感想文を含む報告書の編集作業と、来年には韓国から教会青少年を日本に招く方向で準備に当たる方針を確認しあった。



韓国キリスト教放送局による放送内容は以下のYouTubeのアドレスにアップされている。

＜일본교회 청소년 한국방문＞

－ YouTube －

http://m.youtube.com/watch?v=1a6Nz59X33A&feature=youtu.be&desktop_uri=%2Fwatch%3Fv%3D1a6Nz59X33A%26feature%3Dyoutu.be

(報告: 金性済)

＜関西地方会＞ 大阪教会にて 「オリニ大会」が開催される！



在日大韓基督教会では、毎年6月の第2主日を「オリニ主日」(어린이주일)として守っている。それで関西地方会教育部では、毎年「オリニ主日」を守りながら「オリニ大会」を開催している。

今年も、去る6月9日(主日)午後2時30分から4時30分まで、大阪教会にて、恒例の「オリニ大会」が開催された。参加教会は9教会で、参加人数は128名の盛況だった。

プログラムの内容を見ると、総合司会者は高誠伝道師(大阪教会)だった。まず最初に、人形劇団あぼによる『宇宙人の落し物』が演じられた。三人の女性劇団員によるシンプルな楽しい人形劇で、一同は大いに楽しんだ。

続いて礼拝では、全聖三牧師(教育部長・布施教会)のメッセージ、高慶美執事(教育部員・大阪教会)の祈りと、姜貞淑師母(浪速教会)のリードのもとで、「この日は…主がつくられた」を高らかに讃美した。

9教会の教会学校(京都南部教会、浪速教会、布施教会、大阪教会、堺教会、大阪北部教会、大阪西成教会、平野教会、大阪築港教会)が前もって提出した文章を読み上げながら、パワーポイントで紹介され、それぞれが個性あるものであった。

最後に、おみやげのお菓子を1袋づつ配られて、今年の「オリニ大会」は大きな恵みの内に閉じられたので、本当に感謝である。

(報告：呉 寿恵教育主事)

＜西部地方会＞「共生庵」にて 教役者家族修養会開催

西部地方会教役者会は、去る7月22日(月)から23日(火)まで、7つの家庭で大人11名、子供6名が参加して教役者家族修養会を開催した。地域ごとに車に乗り合って、現在担任牧師の不在の中、霊的な戦いをしている三次教会で集まり、同教会の信徒たちとの交わりを通して、信徒たちには励ましを、教役者たちにはもっと切なる祈りの課題を頂く時間になった。

その後、温泉で体と心をきれいにしてから宿所である「共生庵」(「農」と「自然」に触れ、学び「人と人との出会い」を求め、自分らしさを取り戻すために「出会いと黙想」のためにふさわしい環境づくりと「そのためのプログラム」(地球市民共育塾)の提供をめざしている)に向かった。「共生庵」は、日本基督教団の荒川純太郎先生ご夫妻が経営される施設で、いろいろな経験をすることができる。

まずは、夕食として窯から出てくる焼き立てのピザの味は、他の店では味わうことができないほど美味しい。さらに、ピザを焼く体験できて、子供たちも大喜びだった。ピザを食べながら、これから留学する金聖泰牧師の送別会とともに、日本で初めてのロケットストーブの製作者である荒川先生の様々な証しを夜遅くまで聞くこともできた。



次の朝は、パンを食べながら手作り楽器の多く体験した後、荒川先生から「共生庵」の働きを聞き、日本だけではなく全世界から来る人々と交わりながら神さまの愛を伝えている姿を見て、大きな感銘と使命を受けた。

一行は、とても楽しかった思い出をもって、三次市が自慢する三次ワイナリーへ行行って、楽しく遊び、おいしい昼食を食べた後、各自の働きの現場と教会へ向かった。そして一同は、新しい出会いや深い交わりなど、また霊肉ともに満たされ、癒される時間になったことを感謝した。

(報告者：朴斗熙)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。
・スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】

関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャング】

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025

東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税 込	平 日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500

朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)

＜関西女性連合会主催＞ 第 23 回 みことばと讃美の祝祭開催

去る 9 月 8 日（主日）、関西地方会女性連合会主催で、第 23 回「みことばと讃美のフェスティバル」が、12 教会からの女性会会員 147 名を含む合計 338 名が出席し、大阪教会で開催された。礼拝堂に溢れるほどに集まった信徒たちが、心をつなげて讃美をしながら大きな恵みを受けた。



第一部礼拝では、許清子副会長の司会で金必順牧師（関西地方会会長、堺教会）が「ゆらら」（使徒言行録 17：24、25）と題して説教をした。第 2 部（司会：姜志鮮副会計）では、まず金英子女性会会長の挨拶と審査委員 5 名の紹介があった後、各教会の讃美が行われた。参加した全ての教会が素晴らしい讃美とみことばで神さまに栄光を捧げた。

この中で、合計 157,670 円の席上献金を捧げられた。そして、各部門賞は、《フェスティバル賞》は堺教会、《讃美賞》は大阪北部教会、《みことば賞》は京都教会が受賞した。



今年で 23 回目を迎える「みことばと讃美のフェスティバル」は、特別出演が三チームもあり、中でも浪速教会の男性チームの讃美と振付けが会場を盛り上げ、みことばと讃美の一体感の中で神さまの愛を確かめ合う有意義で豊かな一日となった。

（報告：孫夏景副書記）

豊かな味、豊かな心。



妻家房
SAIKABO

代表取締役 吳 永錫（東京希望キリスト教会 長老）

四谷本店：東京都新宿区四谷 3-10-25 Tel. 03-3354-0100

＜関東地方会＞ 船橋教会 二泊三日の修養会開催

去る 7 月 28 日（主日）より 30 日（火）まで、船橋教会は日光オーリーブの里において、「イエスと共に歩く人生」という主題で修練会を開催した。

一日目は、趙重来担任牧師による開会礼拝後、夜は讃美と祈禱会があった。

二日目は、聖書勉強として「私のアイデンティティ」について共に学び、日本語が理解できる人、韓国語が理解できる人、どちらの言語でもいい人に分かれて意見交換の場を作り、それからそれぞれ発表した。

その中では、韓国人としての自分、日本人としてまたクリスチャンとしての混乱、牧師婦人の役割、どんな時にリフレッシュできるか。さらに、あいにくの雨でもあって室内にてゲームをしたり、これからの船橋教会のあり方を話し合ったり、誰も部屋に戻ろうとはせず裸の話し合いができ、バーベキューをしながら深い交わりの時間をもてたことを皆神さまに感謝した。



三日目は、聖書勉強として「イエスの試練」について学び、グループに分かれ意見交換した後、それぞれ発表した。そして、趙牧師による閉会礼拝と祝福を持って修練会は終了した。

今度の聖書勉強は、趙牧師の息子である趙顯奎伝道師が担当したが、今年で 5 年連続の講師である。

そのきっかけは、五年前（2009 年）の趙牧師の病気がはじまりであった。韓国で神学校を終え、アメリカに渡り勉強している時、父親の重病のことを知り見舞いのため日本に戻った。

その時、女性会は毎日祈禱会を続けていたので、その祈禱会を導いてくれることを頼んだ。信徒たちは、必死の思いで讃美と祈りをすることで、熱く燃え、心が一つになる体験をした。聖霊が臨在し、天使が礼拝堂を飛び回り、声がかすれて出なくなった。

そのゆえに、夏になると自然に趙顯奎伝道師を講師として迎えている。

（報告：金道子長老）

＜関東地方会＞ 船橋教会 創立61周年・長老将立式挙行

去る9月22日(主日)午後4時から船橋教会では、教会創立61周年感謝礼拝と共に、三代川太郎按手執事・権初恵按手執事の長老将立式が執り行われた。担任牧師である趙重來牧師の司会による礼拝では、崔永貴長老(横浜教会)の祈祷後、金根湜牧師(ハンサラン教会)が「見なさい、あなたの母です。」(ヨハネ福音書19:26、27)という題で説教した。

引き続き、長老按手式は関東地方会会長である金健牧師(川崎教会)の司式で、韓在文牧師(副書記、水戸教会)が二人を紹介して、誓約と按手祈祷と宣布を通して正式に長老として将立された。勸勉は金東洙牧師(東京希望キリスト教会)・祝辞は鄭有盛牧師(東京東部教会)が述べた後、二人の長老は教会に感謝の献金をした。



教会は二人の長老に対して、長老将立記念牌と各奉仕部署により花束が贈呈された。そして、先輩長老たちからは長老ガウンがプレゼントされた。

船橋教会の聖歌隊による祝歌の後、三代川長老は二人を代表して「神さまのご計画の中で与えられた役割があると思うので祈りを通して見出し、誠実に奉仕して行きたい」と答辞として挨拶した。すべての礼式が終わり、全教会員が教会の庭で用意したバーベキューで祝賀会をした。

権初恵長老は、1954年3月25日、大阪で生まれた。1985年に同教会で受洗し、2006年に按手執事になった。家族は二人の娘がいるが、権長老は故黄漢伊勸士(2011年召天)が母親である。三代川太郎長老は、1965年11月3日、千葉で生まれた。1995年に東京ハレルヤ教会で受洗し、2008年に同教会で按手執事になった。家族は、妻と息子がいる。(報告:趙重來)

＜西部地方会＞宣教105周年 全国同時に、特別伝道集会開催



日本全国の5つの地方会(関東・中部・関西・西部・西南)で、同時に行われた「宣教105周年特別伝道集会」が、西部地方会では、去る7月21日(主日)の午後4時から、神戸教会にて行われた。

8教会から40人以上が参加して、韓国から鄭榮根牧師(大韓イエス教長老会、白石総会総会長)が講師として来て、「神の願い」(テモテへの手紙一2章4節)という題で説教した。まさに、神の願いは「宣教」であるというメッセージを聞き、参加者たちは日本宣教に励むことを改めて決心する時間となった。

また、他の地方会と違って、宣教協力関係を結んでいる本国の8つの教団から総会長が来たのは白石総会だけである。それで鄭榮根牧師は「今まで宣教協力関係を結んだだけで、実際の働きがなかったので、これからどのように協力するのかを模索するためには、日本に直接来るしかなかった」と語った。これから韓国の白石総会との宣教協力関係が、さらに深くなって行くことを願う次第である。

(報告者:朴斗熙牧師)

韓日対照讃美歌

1冊:2,000円

※総会教会価格。黒色のみ。総会事務所 03-3202-5398



クリスチャン教会・企業検索サイト

レボト・ジャパン

Open!!

10月01日

リニューアル

広告募集開始



Tel : 090-3945-3373
e-mail : info@rehoboth.jp

<http://www.rehoboth.jp>

レボトジャパン

検索





재일대한기독교회
선교 100-110 주년 표어
감사의 백년, 소망의 백년
(데살로니가전서 5:18)

한글판

fukuinshinbun@kccj.jp (복음신문)
info@kccj.jp (총회사무국)

<한일 교회 청소년 교류 투어> 함께 살아가는 미래를 바라보면서



지난 8 월 5 일 에서 8 일까지 총 37 명 (교역자 5 명, 보호자와 신도 6 명, 교단 별 참가자 : 재일대한기독교회 중부지방회 19 명, 일본 기독교단 중부교구 10 명, 일본 기독교회 킨키중회 중부지역 8 명) 이 참가하여 “함께 사는 미래를 바라보면서” 한일 교회 청소년 교류 투어가 한국에서 실시되었다.

이 계획의 발안은 한일 간의 영토문제를 놓고 일본에서는 내셔널리즘이 고양되어 재일대한기독교회 교인들의 자녀가 일본 학교에서 어리석은 학생들의 야유를 받은 학생들의 사정이 목회자의 귀에까지 들려지게 되었던 작년 여름으로 거슬러 올라간다.

이 계획이 중부지방회 임직원회에서 정식 프로젝트로 결의 된 것은 지난해 11 월 16 일이었다.

프로젝트의 취지는 이러한 시기에야말로 미래의 한일 평화구축을 위한 일꾼들이 되어야 한일과 재일교회 청소년 역사 공동학습과 예배의 교류 체험을 실시하는 것이다. 그리고임과 동시에, 선교협약의 구체화이다.

또한 재일대한이 주축이 되어 3 교단의 합동 선교교육 프로그램으로 하자는 것이었다.

일본측 참가자 범위는 중부권에서 발기인인 재일대한기독교회와 선교협약을 맺고 있는 일본기독교단과 일본기독교회의 초등학생 4 학년 이상, 중고생, 대학생, 청년으로 하며, 거기에 교역자와 학부모, 신도 몇 명을 추가하는 것으로 결정하였다.

이 프로젝트가 3 교단 합동으로 실현 될 수 있었던 배경으로는 중부지방회가 지금까지 지난 10 년 동안 선교협약을 맺고 있는 일본의 두 교단과 1 년에 몇 번씩 꾸준히 선교협력 위원회를 계속해왔던 신뢰관계가 있었기 때문임을 잊어서는 안 된다.

프로젝트 실현까지는 결성 간담회 (금년 1 월 22 일) 와 실행위원회 (7 월 2 일부터 수 차례), 그리고 참가자 오리엔테이션 2 회 (5/11, 7/13) 의 준비 과정이 있었던 상태였다. 이 프로젝트를 전면적으로 지지하고 한국에서 지원을 해 준 곳은 한국 기독교장로회 한신교회 (강용규목사) 이며, 숙박 및 버스 이동, 리셉션 등의 큰 도움을 주었다.

첫째 날은 양화진 선교사 묘지견학과 개회예배 (설교 : 강용규목사) 와 리셉션이 있었다. 둘째 날은 경기도 화성시에 있는 제암리교회와 천안시에 있는 독립기념관을 견학하였다. 그리고 삼일 째는 서울에서 세종대왕과 이순신장군의 박물관 견학을 한 후에 한신교회에서 재일 (中野真希자매, 재일대한기독교회 나고야교회) 청년과 일본 (永井文신학생, 일본기독교회 名東教会) 과 한신교회 청년들이 각각 발제를 한 후에 초등학교, 중고생, 대학 청년 그룹으로 나뉘어져서 즐거운 놀이로 교류를 하면서 평화교류 포스터를 만드는 시간도 가졌다.

마지막 프로그램으로는 한신교회 수요일예배 (설교 : 大島純男목사, 일본기독교단 南山教会) 참여와 일본에서 참가한 사람들의 성가대 찬양 및 최이선집사 (재일대한 기독교회 나고야교회) 의 특별찬양이 있었다.



이번 프로젝트는 한국 기독교 언론에도 큰 주목을 받아 기독교 방송국의 취재와 방송을 하기도 하였다. 실행위원회는 반성회와 평가회에서 앞으로도 실행위원회를 계속 존속시켜서 참가자들의 감상문을 포함한 보고서의 편집작업과 함께 내년에는 한국에서 교회 청소년들을 일본으로 초대하는 방향으로 준비를 해 나갈 방침을 정하였다. 한국 기독교 방송국의 방송 내용은 YouTube 에서 볼 수도 있다.

<일본교회 청소년 한국방문>

- YouTube -

http://m.youtube.com/watch?v=1a6Nz59X33A&feature=youtu.be&desktop_uri=%2Fwatch%3Fv%3D1a6Nz59X33A%26feature%3Dyoutu.be

(보고 : 김성제)

< 관서지방회 > 오오사카교회에서 < 어린이 대회 > 개최



재일대한기독교교회에서는 매년 6 월 둘째 주일을 ‘어린이 주일’ 로 지키면서 행사를 어린이대회를 개최하고 있다.

그래서 관서지방회 교육부에서는 매년 ‘어린이 주일’ 에 ‘어린이 대회’ 를 개최하고 있다. 올해도 지난 6 월 9 일 (주일) 오후 2 시 30 분부터 4 시 30 분까지 오오사카교회에서 언제나처럼 ‘어린이 대회’ 가 개최되었다. 참가 교회는 9 교회에서 128 명이 참가하는 상황을 이루었다

프로그램 내용을 보면 종합 사회자는 높은 고 성전도사 (오오사카교회) 였다. 먼저, 인형 극단 아포에 의한 < 우주인의 유실물 > 이 공연되었다. 세 여자의 연극단원에 의한 심플하고 재미있는 꼭두각시 공연에 일동은 매우 즐거워하였다.

이어진 예배에서는 모든 전성삼목사 (교육부장, 후세 교회) 의 설교와 고경미집사 (교육부원, 오오사카교회) 의 기도와 강정숙사모님 (나니와교회) 의 리드로 “이날 은 ... 주님이 만들어 주신” 이라는 찬양을 소리 높여 불렀다.

9 개 교회의 교회 학교 (교또남부교회, 나니와교회, 후세교회, 오오사카교회, 사카이교회, 오오사카 북부교회, 오오사카니시나리교회, 히라노교회, 오오사카직코교회) 가 미리 제출한 문장을 낭독 하면서 파워포인트로 소개 되면서 개성 있는 시간을 가졌다.

마지막으로 선물 과자 1 봉지씩 나누어 주면서 올해의 ‘어린이 대회’ 도 큰 은혜 안에서 개최되었다.

(보고 : 오수혜 교육주사)

< 서부지방회 > [공생암] 에서 교역자 가족 수양회 개최

서부지방회 교역자회는 지난 7 월 22 일 (월) 부터 23 일 (화) 까지 7 개 교회의 가정에서 어른 11 명, 어린이 6 명이 참가하여 교역자 가족수양회를 개최하였다. 각 지역마다 함께 동승하여, 현재 담임목사 부재 속에서 영적인 싸움을 하고 있는 미요시교회 (三次會) 에 모여서, 동교회 성도들과의 교제를 통하여 모인 교인들에게는 격려를, 교역자들에게는 더 간절한 기도 제목이 주어지는 은혜로운 시간을 가졌다.

이어서 온천에서 몸과 마음을 깨끗이 하고, 숙소인 < 공생암 > (共生庵 : 농업과 자연을 체험하고 배우면서 사람과 사람과의 만남을 추구하면서 자기다움을 회복하기 위해 “만남과 명상” 을 위하여 적합한 환경 만들기과 “그것을 위한 프로그램” (地球市民共育塾) 제공을 목표로 하고 있다) 으로 향했다. 이 < 공생암 > 은 일본 기독교단의 아라카와준 타로 (荒川純太郎) 선생 부부가 경영하는 시설로 다양한 경험을 할 수 있다.



먼저, 저녁 식사는 불 가마에서 나온 갓 구운 피자 맛은 다른 가게에서는 맛볼 수 없을 정도로 맛있다. 또한 피자를 굽는 체험 할 수 있어서 아이들에게도 큰 기쁨이었다. 피자를 먹으면서 앞으로 유학을 떠나는 김성태목사의 송별회와 더불어 일본 최초의 로켓 스토브의 제작자인 아라카와선생의 다양한 간증들을 들을 수 있었다.

다음날 아침은 빵을 먹으면서 손으로 만든 악기의 다양한 체험을 한 후에 아라카와 선생으로부터 < 공생암 > 에 관한 여러 가지 활동을 들으면서 일본뿐만 아니라 전세계 에서 온 사람들과 교제하며 하나님의 사랑을 전하고 있는 모습을 보고 큰 도전을 받았다.

이어서 일행은 정말 즐거웠던 경험들을 가지고 미요시시 (三次市) 가 자랑하는 와인공장에 가서 즐기면서 맛있는 점심을 먹은 후 각자의 현장과 교회로 돌아갔다. 그리고 일동은 새로운 만남과 깊은 교제와 더불어 영육간에 강건해지고 치유되는 교역자 가족 수양회가 된 것을 감사했다. (보고 : 박두희)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様のご会議及び宿泊研修(50名)も可能。
・スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャンゴ・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】

関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャンゴ】

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国YMCAアジア青少年センター ☎ 101-0064

関西韓国YMCAアジア青少年センター ☎ 537-0025

*会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京都千代田区猿樂町 2-5-5 ☎ 03-3233-0611

大阪市東成区中道 3-14-15 ☎ 06-6981-0782

税 込	平 日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

<관서지방회> 여성연합회 주최 제 23 회 말씀과 찬양의 축제



지난 9 월 8 일 (주일) 에 오오사카교회에서는 관서지방회 여성연합회 주최로 제 23 회 <말씀과 찬양의 축제> 가 12 개 교회에서 여성회 회원 147 명을 포함한 총 338 명이 참석하여 개최되었다. 예배당이 넘칠 정도로 많이 모인 신도들이 합심하여 찬양을 하면서 큰 은혜를 받았다.

제 1 부 예배에서는 허청자부회장의 사회로 김필순목사 (관서 지방회장, 사카이교회) 가 “유라라 (흔들거리는 종이 연극)” (사도행전 17:24,25) 라는 제목으로 설교하였다. 2 부 (사회: 강지선 부회계) 는 먼저 김영자 여성회장의 인사와 심사위원 5 명의 소개가 있는 후 각 교회의 찬양이 시작되었다. 참가한 모든 교회가 은혜로운 찬양과 말씀으로 하나님에게 영광을 돌렸다. 본 행사에서는 총 157,670 엔의 헌금이 드러졌다. 그리고 각 부문상은 보면 <페스티벌 상> 은 사카이교회, <찬양상> 은 오오사카 북부교회, <말씀상> 은 교토교회가 각각 수상했다.



올해로 23 회째를 맞이하는 <말씀과 찬양의 축제> 는 세 팀이 특별출연을 하였는데, 그 중에서도 나니와교회의 남성팀의 찬양과 안무는 웃음과 박수로 온 회장을 뜨겁게 달구는 말씀과 찬양의 일체감 안에서 하나님의 사랑을 서로 확인하는 보람되고 풍성한 행사가 되었다. (보고: 손하경 부서기)

豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 吳 永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店: 東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

<관동지방회> 후나바시교회 전교인 수련회 개최

지난 7 월 28 일 (주일) 부터 30 일 (화) 까지 후나바시 교회는 닛코 올리브의 마을에서 <예수님과 함께 걷는 삶> 이라는 주제로 수련회를 개최하였다.

첫날은 조중래담임목사의 개회예배를 담당한 후, 밤에는 찬양과 기도회를 가졌다.

둘째 날은 성경공부로 “나의 정체성” 을 주제로 함께 배우고 난 후, 일본어가 편한 사람, 한국어가 편한 사람, 그리고 두 언어를 사용해도 불편하지 않은 사람으로 나누어 의견 교환의 장을 만들어 각각 발표했다.



그 중에서 한국인으로서의 자신, 일본인으로서 또한 그리스도인으로서의 혼란, 사모의 역할, 어떤 때에 평안한가? 더불어, 비가 계속내렸기 때문에 실내에서 게임을 하면서 앞으로의 후나바시교회의 본연의 자세를 논의하게 되어 아무도 방으로 돌아 가려고 하지 않을 만큼 알몸 대화를 하고 바베큐를 하면서 깊은 교제의 시간을 가졌음을 하님께 감사드렸다.

셋째 날은 성경공부로 <예수의 시련> 에 대해 배우고 그룹을 나누어 의견을 교환한 후 각각 발표했다. 그리고 조목사의 폐회예배와 축도로 수련회를 모두 마쳤다.

성경공부는 조목사의 아들인 조현규전도사가 담당하였는데 올해로 5 년 연속 강사로 봉사하고 있다. 그 동기는 5 년 전 (2009 년) 에 조목사의 병이 시작이었다. 한국에서 신학을 마치고 미국으로 건너가서 공부하고 있을 때, 아버지의 중병의 소식을 듣고 병문안을 위해 일본으로 돌아 왔었다.

여성회는 매일 기도회로 모이고 있었던 관계로 그 기도회를 인도해 줄 것을 요청하였다. 신도들은 필사적으로 찬송과 기도를 하면서 뜨겁게 불타오르고 마음이 하나가 되는 체험을 하였다. 성령이 임재하고 천사가 예배당을 날아 다니며 (너무 기도하여) 목이 쉬어 소리가 나오지 않을 정도였다.

이로 인하여 여름이 되면 자연스럽게 조현규 전도사를 강사로 맞이하여 수련회를 가지고 있다.

(보고: 김도자장로)

<관동지방회> 후나바시교회 창립 61주년과 장로 장립식



지난 9월 22일(주일) 오후 4시부터 후나바시교회에서 교회설립 61주년 감사예배와 미요가와타로안수집사와 권초혜안수집사의 장로장립식이 거행되었다. 담임목사인 조중래목사의 사회로 시작된 예배는 최영귀장로의 기도, 김근식목사의 “보라, 네 어머니라”(요한복음 19:26-27) 제목으로 설교가 있었다.

장로안수식은 관동지방회장인 김 건목사(카와사키교회)의 사식으로 한재문목사(부서기, 미토교회)의 장립 받을 분에 대해 소개 후 서약과 안수기도와 선포로 장립을 했다. 이어 김동수목사(동경희망그리스도교회)의 권면, 정유성목사(동경동부교회)의 축사가 있었다. 장립 받은 두 장로는 교회에 헌금을 하였고, 교회는 감사패를 증정했으며, 선배 장로가 장립 받은 장로에게 가운을, 각 부서에서는 꽃다발과 선물을 했고 찬양대에서 축하송을 했다.

미요가와타로 장로는 두 사람을 대표하여 하나님의 계획 속에서 주어진 역할에 대해 기도를 통하여 발견하여 성실히 장로로 봉사하겠다고 답사를 했다. 예식이 끝나고 교인들이 교회정원에서 준비한 바베큐를 통하여 축하회를 가졌다. 이로서 후나바시 교회는 61년 교회 역사가운데 4번째 5번째 장로를 세우게 되었으며 새로운 출발을 하게 되었다.

금번 장로가 된 미요가와타로장로는 1965년 11월 3일에 치바에서 태어났으며, 1995년에 동경할렐루야교회에서 세례를 받았고 2008년 동 교회의 안수집사가 되었다. 가족으로는 아내 박계영권사와 아들이 있다. 권초혜장로는 1954년 3월 25일 오오사카에서 태어났으며, 1985년에 동 교회에서 세례를 받았고, 2006년에 안수집사가 되었다. 가족으로는 딸과 아들이 각각 한 명 있으며, 고향한이권사(2011년 소천)가 어머니이다. (보고 : 조중래)

<서부지방회> 선교 105주년 전국에서 특별 전도집회 개최

일본 전국의 5개 지방회(관동·중부·관서·서부·서남)에서 동시에 열린 ‘선교 105주년 특별 전도집회’가 서부지방회에서 지난 7월 21일(주일) 오후 4시부터 코오메교회에서 열렸다.

8교회에서 40명 이상이 참가하여 한국에서 정영근목사(대한예수교장로회, 백석총회 총회장)가 강사로 와서 “하나님의 소원”(디모데전서 2장 4절)이라는 제목으로 설교했다. 정말 하나님의 소원은 “선교”라는 메시지를 듣고 참가자들은 일본 선교에 힘쓰야 된다는 것을 재차 결심하는 시간이 되었다.



그리고 다른 지방회와는 다르게 선교 협력관계를 맺고 있는 본국의 8개 교단 중에서 총회장이 직접 온 것은 백석총회 뿐이다. 이에 대하여 정총회장은 “지금까지 선교 협력 관계를 맺었을 뿐이지 실제적 기능은 없었기 때문에 앞으로 어떻게 협력해 나갈 것인가를 모색하기 위하여 일본에 직접 올 수 밖에 없었다”고 밝혔다.

앞으로 본국의 백석총회와의 선교 협력관계가 더욱 깊어져 가기를 소원해 본다. (보고 : 박두희)

한일 대조 찬송가

1권 : 2,000 엔



총회 소속 교회와 교인들 가격이며, 흑색 뿐입니다.

문의 : 총회사무실 (03-3202-5398)



クリスチャン教会・企業検索サイト

レホボト・ジャパン

Open!!

10月01日

リニューアル

広告募集開始



「レホボト・ジャパン」
代表 五家 様

Tel : 090-3945-3373

e-mail : info@rehoboth.jp

<http://www.rehoboth.jp/>

レホボトジャパン

検索

